

知らなかった池田の 歴史・文化

をひもとく

問合せ 社会教育課 ☎ 754・6674

池田の歴史や文化について
詳しく知りたいと思ったことはありませんか？
本市は市域の現代までの歴史を
詳しく説明した図書『新修池田市史』、
『池田市史』史料編などを刊行しています。
今号では、編纂^{さん}の成果と市史の魅力を紹介します。



市史編纂とは

池田の歴史や文化について、市民の皆さんに知っていただき、
後世に伝えていくことが目的です。そのために、

- ①池田の歴史や文化について詳しく調査し、書籍として「市史」を刊行します。
- ②歴史を語る史料や行政資料を調査・収集・保存します。
- ③上記の成果をパネル展示や講演会などで公開します。

市史編纂の歴史

戦後における始まりは、昭和27(1952)年から。郷土を知る手がかかりとなるよう、約70年間、市史を編纂してきました。刊行した図書の数は20点にわたります。

最初の『池田市史』は当時の武田義三市長のもと事業が始められました。その目的は、「郷土の発展のために、郷土の過去、歴史を調べ、現在の位置・状況を認識し、将来への道を見出す」ためでした。『池田市史』概説編(昭和30年)、『池田市史』各説編(昭和35年)、『新版池田市史』概説編(昭和46年)のほか、『池田市史』史料編として、伊居太神社や池田の旧家の日記など、全9巻が刊行されました。

その後、新たに判明した史料や近年の歴史学の成果を踏まえ、平成5年度から新しく編纂されたのが『新修池田市史』第1～5巻・別巻、『池田市史』史料編⑩、⑪です。本市を取り巻く社会の変化と歩みを記録しています。

『池田市史』と『新修池田市史』
※『池田市史』は、図書館や
市役所2階行政情報コーナーでも
閲覧できます。

地域の方々のご協力があって編纂されてきた『池田市史』

市史には、地域に残されたさまざまな史料(古文書や公文書、写真など)から分かったこと、地域の方々や行政関係者への聞き取りの結果が反映されています。1つ1つの地道な調査研究の集積によって、初めて全体の歴史が分かります。言い換えれば、残された史料や記憶がなければ、何も分かりません。たくさんの地域の方々、そして、そこに残されていた記録・記憶を今日に伝えようとされる方々のご協力あって、市史が編纂されてきました。

後世に歴史を伝えるために、歴史をうかがうことができる史料を保存していくことが大切です。江戸時代以前・明治・大正・昭和・平成の池田に関する記録や文書、古い写真や音声・映像など、お持ちでしたらお声掛けください。



地域に伝わる古文書



史料調査の様子



聞き取りの様子
(『池田市史』史料編⑩から転載)

池田市史編纂委員会 小田委員長インタビュー

小田康徳委員長に
市史編纂の意義についてお聞きしました。

Q.なぜ自治体で「市史」を編纂する必要があるのでしょうか。

A.「市史」とは市域の歴史を確実な史料に基づいて多面的に明らかにし、個々の史実や時代の変遷を叙述したものです。史実に対する評価はさまざまとしても、それは市民の共通認識となり、やがては市民としてのアイデンティティを形成していきます。市史編纂は自治体の真剣で大事な仕事です。

Q.市民の皆さんにとっての「市史」の価値は何でしょうか。

A.例えば、市政のあり方について各方面に働きかけるとき、当該「市史」に参考とすべき記述があれば力になります。あるいは、気になる遺跡を見かけたとき関連記述があればうれしいですね。要は、読む人の問題意識に応える記述があるかどうか、そこに「市史」の価値も見えてくるでしょう。



小田委員長

市史編纂成果の公開

「市史編纂だより わがまち歴史散歩」の執筆

ID 2691

地方史では歴史として認知されていない事実がたくさんあります。本誌に編纂委員が隔月で「市史編纂だより」を連載し、『新修池田市史』では取り上げきれなかった市域のさまざまな歴史について、専門的な知見から分かりやすく解説しています(今号は44ページ)。

『池田町便覧』『グラフいけだ』の公開

ID 11834

過去の池田市域について知ることができる史料をホームページで公開しています。

『池田町便覧』は、大正10(1921)年、池田便覧社から発行された池田町、細河村(以上、現池田市)、川西村(現川西市)のガイドブックです。広告も充実し、当時の産業や商業がうかがえます。

『グラフいけだ』は、昭和41(1966)年に創刊され、現在も発行されている市のグラフ誌です。昭和43(1968)年まで、1~6号を公開しており、オーストラリアのローンセストン市との姉妹都市提携や水道行政の特集など、戦後の行政の様子が分かります。



『池田町便覧』



『グラフいけだ』1号、3号

歴史民俗資料館 細谷館長インタビュー

25年以上にわたり『池田市史』編纂に携わった、
歴史民俗資料館の細谷館長に
市史の魅力について聞きました。



細谷館長

Q.市史の魅力・面白さは何でしょうか。

A.自分の住んでいる地域の歴史について、手軽にヒントを教えてくれる、というところでしょうか。結構マニアックなことも載っているの、疑問や興味を抱いたら、とにかく一度開いてみてください。自身で調べると、まちのことを身近に感じることができると思いますよ。

Q.ここをぜひ読んでほしい、というポイントを教えてください。

A.いろいろあり過ぎて、むしろ全部がポイントと言ってもいいかもしれません。市史は大きくは時代に沿って書かれています、その中は細かなテーマに分かれていますから、全体を読んでも良いですし、読みたい箇所だけを読んでも良いですよ。実は1行を書くのに何日も調査に費やしたことがたくさんありました。そんな苦労が至るところに隠れていますので、皆さんぜひ読んでみてください。

分かること



各巻で取り上げている時代・ポイントをまとめました。
郷土池田の歴史を知ることで見つめ直す機会になるかもしれません。
『新修池田市史』『池田市史』史料編をぜひ手に取ってみてください。

1巻

1 地理・考古・古代・中世編

平成9年発行 798ページ



時代 池田に人が住み始めた約2万年前の
後期旧石器時代から戦国時代まで



ポイント 南北朝時代ごろからこの地域に勢力を
張った「池田氏」とその居城「池田城」

2巻

2 近世編

平成11年発行 763ページ



時代 大坂と能勢地方とを結ぶ
物資の中継地として栄えた
江戸時代



ポイント 在郷町池田村の繁栄、市域
の半分を占めた麻田藩領
の村々

4巻

4 現代編

平成23年発行 894ページ



時代 戦後から平成12
(2000)年ごろ
まで



ポイント 郊外住宅地とし
て発展した池田
の歩み、教育

5巻

5 民俗編

平成10年発行 841ページ



時代 江戸時代から明治・
大正・昭和ごろまで



ポイント かつての暮らしや年
中行事・祭礼につい
て地域ごとに記述

3巻

3 近代編

平成21年発行 906ページ



時代 伝統的な文化と新たな都
市文化が交錯した明治時
代から昭和20年まで



ポイント 箕面有馬電気軌道(現阪
急電鉄)の開通、室町の
郊外住宅開発

4

史料編⑩

近代史資料

平成26年発行 523ページ



時代 明治時代から
昭和20年まで



ポイント 明治の池田、文教・
住宅都市への歩み、
戦時下の池田、池田
の出版文化

史料編⑪

現代史資料

平成28年発行 546ページ



時代 戦後から
2000年代
ごろまで



ポイント 行政・政治、
産業・経済、
社会・生活、
教育・文化

別巻

別 年表・索引編

平成24年発行 258ページ



時代 45万年前ごろから
平成22年まで



ポイント 古代から現代までの
詳細な年表、5,000
に及ぶ索引

販売について

ID 2689

第1～5巻、史料編⑩⑪は各1,000円、
別巻は500円、下記の場所で販売しています。

- 社会教育課(市役所5階)
- 歴史民俗資料館(五月丘1-10-12)
- (一財)いけだ市民文化振興財団事務所(栄町1-1)
- 市民文化会館(天神1-7-1)
- カルチャープラザ(天神1-9-3)